

# 果樹（びわ・かんきつ）園を活用した地域活性化事業

実績額 8,567千円（うち交付金4,284千円）

## 1 事業の目的・概要

安房地域で栽培が盛んな「びわ」・「かんきつ」は、主に傾斜地で栽培され、作業性が悪く、また重労働であることから、担い手確保が難しく、高齢化と放棄園の増加等による産地縮小が懸念されている。

このため、優良圃場の流動化に向けたアンケートやドローンによる圃場カタログの作成を行った。また、びわ低樹高栽培や中晩柑柑橘等のモデル圃場も設置するとともに、台風被災後の復興に向けた新技術・新品目導入も進め、地域活性化を図った。

さらに、観光客等の交流人口を増やすため、南房総ならではの新たな体験メニューを開発し、受入体制の充実などのノウハウを蓄積するためモニターツアーを実施した。

## 2 事業の内容

### (1) 果樹（びわ・かんきつ）再生協議会の運営

#### ア びわ再生協議会の活動

「びわ振興方針（平成30年3月）」に基づき、圃場流動化に向けた圃場のカタログ化を行うとともに、低樹高栽培・自然災害対策モデル実証圃場の設置を行った。

〈令和元年度実績〉

圃場流動化に関するアンケート：67/68戸

圃場カタログの作成：1件

施設びわ低樹高栽培モデル実証圃場の設置：2圃場

自然災害対策モデル実証圃場の設置：5圃場

#### イ かんきつ再生協議会の活動

「かんきつ振興方針（平成30年3月）」に基づき、圃場流動化に向けた圃場のカタログ化を行うとともに、新技術・新品目のモデル実証圃場の設置を行った。

〈令和元年度実績〉

圃場流動化に関するアンケート：40/76戸

圃場カタログの作成：1件

流動化に向けた座談会の開催：1回

観光みかん狩り園における新技術栽培モデル実証圃場の設置：1圃場

新品目レモンの栽培モデルの検討：7圃場



圃場カタログ



みかん新技術実証圃場

### (2) 南房総地域の交流促進事業（モニターツアー等の実施）

#### ア 南房総ならではの新たな体験メニューの開発及びモニターツアーの実施

南房総ならではの新たな体験メニューを開発するとともに、ターゲット別のモニターツアーを実施した。

〈令和元年度実績〉

一般消費者向け・大学生向け・在日外国人向けモニターツアー 各1回

事業名	果樹（びわ・かんきつ）園を活用した地域活性化事業	
担当課	農林水産部生産振興課 農林水産部流通販売課	
総合戦略記載箇所	大項目：(1) “一人ひとりの働きたい” がかなう千葉づくり 中項目：②力強い農林水産業の確立	
<b>【本事業における重要業績評価指標（KPI）】</b>		
指標名	実績値	目標値
新技術・新品目導入により、施設栽培に 取り組む果樹生産者	8件	3件
<b>【事業効果の判定】</b>		
①地方創生に非常に効果的であった (例: 全ての KPI が目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合)		
②地方創生に相当程度効果があった (例: 一部の KPI が目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)		
③地方創生に効果があった (例: KPI 達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合)		
④地方創生に対して効果がなかった (例: KPI の実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言えないような場合)		
<b>【要因・課題】（取組推進に当たっての問題点、問題点を踏まえた目標達成に必要な課題）</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・圃場流動化に関するアンケートから、流動化の優先度の高い圃場が明らかとなった。また、流動化の優先度の高い圃場をカタログ化し、座談会等で検討を行ったところ、優良園地の流動化に効率的であることが確認できた。しかし、令和元年房総半島台風被害により園地や生産者の状況は変わっており、今後は生産者の意向を把握しながら座談会等による検討を進め、圃場の流動化を具体的に進めていく必要がある。</li> <li>・新技術・新品目導入のモデル圃が設置され、経営改善に取り組む果樹生産者が増加した。今後は安定した生産技術定着や地域への普及を図っていく必要がある。</li> <li>・モニターツアーや受入農家の聞き取り調査等を行う中で、受入態勢の構築に加えて訪問する側へ援農などの留意点を詳細に説明することで交流を円滑に実施できることが分かった。</li> <li>・造成したツアーを今後民間企業等で商品として取り扱ってもらうために、地域のグリーン・ツーリズム関連団体等と連携し、効果的なプロモーションを行っていく必要がある。</li> </ul>		
<b>【改善策・取組方針】（要因・課題を踏まえた具体的な取り組み（令和元年度に向けた取組の修正・改善））</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・圃場流動化への対応として、協議会開催を含め、現地農家との座談会等を実施し、地域にあった具体的な方針や対策について意見交換を実施する。</li> <li>・栽培技術講習会や園地視察等により、モデル圃の検討を進め、技術定着や新技術・新品目の普及を図る。</li> <li>・受入側に必要なスキルの向上に資する研修会を継続して開催するとともに、先進地の視察の実施や本事業の趣旨に賛同する生産農家を地域の核として、受入農家の拡大に努める。</li> <li>・訪問側にも活動の意義や効果等について十分な理解を得て参画ができるように、地域のグリーン・ツーリズム関連団体等と連携した効果的なプロモーションを継続して実施する。</li> </ul>		